

志小安全・防災だより



R元.11. 5 NO.26
安全・防災担当:早坂 潤

5年生の総合的な学習で地域の環境について学んでいます

5年生は、総合的な学習の時間に「南三陸町の環境を見つめ直そう」を学習中です。先週、佐藤太一さんと工藤真弓さんを講師に、みんなの暮らしを支えている木が生活の中でどのような使われ方をしているのか、木を育てることがなぜ自然災害の発生を防ぐことができるのかなど話をいただきました。山の木は、山の土が崩れないように守るだけでなく、水を吸収するために水害を防ぐことにもつながることなど子どもたちも自分が知っていることをどんどん発表することができました。太一さんから、「昔の山（江戸時代）と現代の山を比べたときに、木が多いのはどちらでしょうか？」と問われたときに、子どもたちは、「昔の山」と当然のように答えていましたが、なんと現代の山の方が木の数は多いそうです。江戸時代にはすでに、林業も盛んだったとのことですが、木を切った後に木を植えるということをしなかったそうです。木を切り使いすぎることによって山の機能が損なわれてきたそうです。江戸時代は、木を使うだけ使って植えていないので、はげ山も見られたとのことでした。また、戦争当時は、山から燃料を取るために山を荒らしたために土砂崩れなどの災害も多発したとのことでした。現代のように適切な管理がされ、手入れがされている山は、私たちに恵みをもたらす話も聞かされ、子どもたちは自然の力の雄大さと現代の林業に関する興味が沸いてきたようでした。



佐藤太一さんや工藤真弓さんから山林の働きについて教えていただいた後（翌日）、上ノ山に登り、南三陸杉の特徴や山の管理の仕方などを詳しく教えていただきました。太一さんより日本で一番高い杉は秋田にあり、年齢で言うと500歳で56メートルであることを教えていただいたときには、子どもたちも驚いていました。南三陸杉は、通常17～20メートルの高さで伐採されるそうです。また、1月12日は、山神様が山の本数を数える日だそうです。人が山に入ると木として数えられ、木に変えられたり、神隠しに遭ったりするとのことでした。日本人は、昔から山などの自然との対話をしながら生活してきた民族であることから、これからも大事にしていきたいこともお話いただきました。

志津川中学校区防災教育協力者会議が行われました



10月24日に行われた会議の内容は、志津川中学校で11月2日に行われた避難所運営訓練についてでした。大人を頼らず、訓練の中での判断を生徒自身に委ねているところに、いざというときの叱咤の判断力や、周りの人を思いやる気持ちが育っていくことにつながるのではないかと思います。